

第 1 回広島高速道路における大規模修繕等に関する技術検討委員会
議事録

- 1 日 時 令和 7 年 9 月 4 日（木） 10：00～11：00
- 2 場 所 広島大学工学部 A2 棟 622 会議室
- 3 出席者 資料 2「出席者名簿」のとおり
- 4 傍聴者 2 名
- 5 報 道 2 社

（新 聞）日刊建設工業新聞社

（テレビ）テレビ新広島

6 議事概要及び結果

事務局から、資料 3「第 1 回広島高速道路の大規模修繕等に関する技術検討委員会資料」により、委員会の設置目的、広島高速道路の現状と課題、大規模修繕等の考え方等について説明

（１）RC 床版に係る大規模修繕の優先順位について

委 員）RC 床版のフローチャートによると、設計時の防水の条件などから高機能防水の施工状況に応じて大規模修繕の要否を判定する流れとなっていることから、橋梁の施工時期を考えると、多くの床版が大規模修繕の対象になる可能性がある。予算の制約もある中で、比較的早く大規模修繕を対応すべきものとそうでないものを区別できるとよい。たとえば、A ランク損傷が確認された箇所における設計条件（防水材料）や環境条件（交通量や凍結防止剤の散布条件）が類似している箇所については、将来的に A ランク損傷が発生する可能性が高いことから、優先的に大規模修繕の対象とし、該当しないものは当面は定期点検の中で進行を確認していくといった優先順位付けを考えてみてはどうか。

事務局）どのような条件下で床版の漏水等が発生しているかといったデータを整理した上で、今回示したフローが適切な形か検討し、改めて説明する。

（２）PC 桁の維持管理について

委 員）PC 桁については、建設当時のコンクリートの品質が、現在の基準に照らすと十分ではない場合があり、それが損傷の一因となっているケースも見受けられる。特に PC 鋼材の破断は、性能の低下に直結し、場合によっては部材が破壊に至る可能性もあることから、絶対に避けなければならない。非破壊検査を行う場合においては、その精度が重要であり、PC 鋼材の損傷を見落とすことがあれば、予期せずに PC 鋼材が破断し、部材が破壊に至るということにもなりかねない。この点に十分に留意し、維持管理を進めていただきたい。

事務局）了解した。

(3) 剥落防止対策について

委員) コンクリートが剥落して第三者被害が出る場合であっても、構造物本体の耐荷性(健全性)は保たれていることが多い。問題は被害を防ぐための対策であるが、剥落防止ネットを設置する工法は、点検時に損傷の進展を把握しにくくなるという側面もあることに留意する必要がある。

事務局) 了解した。

(4) ジョイント部からの漏水について

委員) 鋼桁のデータを見ると、通常修繕はされているものの、一定程度の劣化が進行していることが確認できる。100年という長期的な視点で考えた場合、日常の管理・修繕についても、現在のレベルで十分なのか、改めて考える必要がある。

委員) 鋼桁の端部や支承が錆びてくるというのは、ジョイント部からの漏水が主要な原因であると考えられる。ジョイント部からの漏水による劣化は昔からの課題であるが、抜本的な対策が難しいというのが現状である。対症療法ではあるが、できるだけ漏水を防ぐという観点から日常の管理・修繕を行っていき、早期に漏水を発見することが重要である。

事務局) 了解した。

(5) 全体の総括について

委員) 本日の指摘や意見を大規模修繕等の考え方に反映させ、多少の追加修正を行えば、大筋としてはこの方向でよいと考える。大規模修繕等の考え方については、妥当と認めることとする。

事務局) 了解した。

以上